

2023 年度 大阪 YMCA サポートクラス

ボランティア養成講座のご案内

大阪 YMCA サポートクラスでは、1996 年度より、LD（限局性学習症）およびその周辺（知的に大きな遅れのない自閉スペクトラム症など）の子どもたちへの全体的な発達の支援に取り組んでいます。こうした子どもたちの特性を理解し、寄り添い、支援をサポートしてくださるボランティアの方を募集しております。子どもたちの特性の基本理解や具体的な援助の仕方、ボランティアとして必要なことについて、下記の講座を行いますので、ぜひご参加ください。

日 時：2023 年 4 月 8 日（土） 10:00～12:00（受付 9:30～）

会 場：大阪 YMCA 会館（部屋については、当日 1 階ロビーの案内を参照ください）

対 象：18 才以上で、ボランティアとして活動する意志のある方

定 員：20 名

参加費：無料

申込方法：お電話、もしくは右記受付専用フォームからお申込みください

大阪 YMCA サポートクラス TEL 06-6441-5070



受付専用 QR コード

10:00 11:30	<p>《発達障がい理解講座》 『LD およびその周辺の子どもの基礎理解と対応』</p> <p>講師：加藤 義弘（言語聴覚士） 大阪 YMCA 発達支援事業部 堺市教育委員会 外部専門家</p>
11:30 12:00	<p>《ボランティア説明会》</p> <p>① サポートクラス 各プログラムの説明 ② サポートクラスでの援助の仕方および活動内容について</p> <p>※ 説明会終了後、ご希望の方にはボランティア登録をさせていただきます。</p>

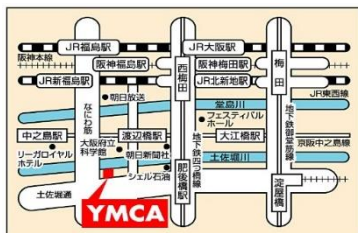


加藤 義弘

教育機関の巡回相談や研修講師多数。わかりやすい指導や説明は子どもたちだけでなく、保護者からも大きな信頼を得ています。

【サポートクラス活動内容】

クラス名	クラス内容	対象	スケジュール
てくてく幼児クラス	就学に向けて練習を積む	年中・年長児	週 1 回（火～金の午後）
てくてくクラス	学習の基礎を身につける	小学生～高校生	週 1 回（火～金の午後、土曜日）
サタデークラブ	仲間作りを楽しむ	小学 4 年生～中学生	月 1 回（土曜日の午後）



* アクセス *

大阪市西区土佐堀 1-5-6 4 階

地下鉄四ツ橋線肥後橋駅 3 番出口より 徒歩約 7 分

京阪渡辺橋駅より 徒歩 7 分

地下鉄御堂筋線・京阪淀屋橋駅より 徒歩約 15 分

クラスの詳細は、ホームページをご覧ください。



ボランティアの活躍

サポートクラスで活躍されているボランティアの皆さんは、「大学での学びをもっと深めたい」「普段の仕事とは違う形で社会貢献したい」「退職後も誰かの役に立ちたい」と様々な思いを胸に、YMCA に集っています。ボランティアの皆さんの存在は、子どもたちに学びや活動の広がり、安心や楽しさをもたらしてくれています。サポートクラスは、通っている子どもたち、保護者、そしてボランティアの皆さんが“ともに成長していける場”であることを目指しています。

てくてくクラスボランティア（大学生）



大学1年生からボランティアリーダーとしての活動を始め、4年目になります。発達支援に興味があったので、自分自身の学びのためにサポートクラスにも参加し始めました。少人数のサポートクラスは、子どもたち一人ひとりとしっかり向き合うことができます。講師の先生は子どもたちの苦手さをよく理解し、丁寧に寄り添いながら問題解決を図っています。その素敵な関りを間近で見ることができ、刺激の多い場所です。これからもたくさんの子どもたちや先生方と学び、成長し続けていきたいと思っています。

てくてくクラスボランティア（大学生）

教育系の大学で心理学や福祉を学んでおり、授業の一環でボランティアに参加しています。苦手さを抱えた子どもたちに対し、上手にサポートできるのか不安でしたが、実際に関わってみると子どもたちの変化や仲の深まりを身近で感じることができています。クラスの中で困ったこと、不思議に思ったことがあれば、講師の先生と情報を共有し助言をもらえるので、安心して子どもと関わるすることができます。大学で学んだことの理解も深まり、子どもと接することに少しずつ自信がついてきています。



ステップアップクラスボランティア（大学生）



母から教えてもらったことがきっかけで、サポートクラスでのボランティア活動を始めました。何ヶ月も一緒に活動していると、以前は答えられなかった課題に解答することができていたり、先生からの指摘を受け入れることができるようになっていたり、子どもたちの成長を感じることができま。子どもたちの頑張る姿や成長し続ける様子を見て、将来、自分自身も「苦手さを抱える子どもやその家族と関わりたい、支援をしたい」という目標を持つことができました。